

診療科別コース一覧【病理】

令和6年4月1日

○ キャリア形成支援機関及び診療科別コース

各診療科別コースは新プログラム向けに策定されています。（「病理／診療支援部門」を除く。）旧プログラム選択者については、新プログラム向けの診療科別コースを参考にキャリア形成プランを作成します。

千葉大学医学部附属病院

病理／診療支援部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

東邦大学医学部（※コース管理者は東邦大学医療センター佐倉病院）

病理／診療支援部門／非常勤・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

医療法人鉄蕉会 亀田総合病院

病理／非常勤・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

診療科別コース(診療支援部門)(当初作成日:令和4年8月30日)

1 概要

診療科(基本領域)	病理
キャリア形成支援機関	千葉大学医学部附属病院
診療科別コース管理者 所属職氏名	病理診断科 科長 池田純一郎
問合せ先	043-222-7171(内線 6401)
コースの特長	<ul style="list-style-type: none"> 充実した指導体制のもとで、知識・技術の研鑽が可能 大学院での学術研究により博士取得可能

2 取得可能な資格、知識、経験等

取得可能な資格、知識、経験等	備考(標準的な取得時期等)
死体解剖資格	医師免許取得後4年以降
病理専門医	医師免許取得後6年目
細胞診専門医	医師免許取得後6年目
分子病理専門医	医師免許取得後7年以降
医学博士	医師免許取得後6年目

3 キャリアパスのイメージ(想定就業例であり将来的な配置を約束するものではありません)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
状況	臨床研修	専門研修(病理)							
		基幹+連携							
勤務先 医療機関※	臨床研修病院群		診*		診*	診			

※勤務先医療機関: 臨床研修病院群…県内の臨床研修病院
 診…診療支援部門群、猶予…県外での勤務等による猶予
 診非…診療支援部門群における非常勤での勤務
 *:対象期間中、4年間大学院にて学術研究を行い、博士号を取得

4 勤務が想定される医療機関(将来的な配置を約束するものではありません)

診療支援部門群(診)
千葉大学医学部附属病院、千葉メディカルセンター、千葉県がんセンター

※あくまで地域A群病院に行くことが本制度の趣旨であり、地域A群病院でニーズが生じ、相応の受入体制が整備された場合は、地域A群病院に配置されることになります。

5 診療科別コース管理者からのメッセージ

専門研修基幹施設である大学病院として、幅広い症例に加えて、高度あるいは希少症例の経験もできます。指導医も他の施設に比べて豊富であり、臓器別の専門性もある程度確保されています。外科病理診断の全領域について常に世界標準の診断レベルを目指しています。病理診断科と病理学教室が診断と研究について密接に連携しており、最新の診断病理学を幅広く身につけながら、研究マインドと研究の基礎能力も養成できます。

(注意事項)

- 実際の勤務先等はその時点での診療科の事情や猶予期間(妊娠・出産・育児・介護等、学位取得や留学等)等の影響を受けるため、上記の内容と異なる場合があります。
- 診療科別コースを選択した上で、診療科別コース管理者との相談等を通じて個別の事情を考慮したキャリア形成プランを作成します。

診療科別コース(診療支援部門)(当初作成日:令和4年8月30日)

1 概要

診療科(基本領域)	病理
キャリア形成支援機関	東邦大学医学部
診療科別コース管理者 所属職氏名	東邦大学医療センター佐倉病院 病理診断科 診療科責任者 教授 蛭田 啓之
問合せ先	043-462-8811 / kyouiku-sakura@ml.toho-u.jp
コースの特長	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関および付属3病院において、幅広い疾患を豊富な症例で経験できます。 東邦大学にはダイバーシティ推進センターが設置されており、ワークライフバランスに配慮した就労環境を整備しています。研修中のライフイベントにも柔軟に対応します。 キャリアプランを尊重します。 大学院での学術研究を並行して行い、医学博士の取得が可能です。

2 取得可能な資格、知識、経験等

取得可能な資格、知識、経験等	備考(標準的な取得時期等)
病理専門医	医師免許取得後6年目
日本臨床細胞学会細胞診専門医	医師免許取得後6年目
死体解剖資格(厚生労働省認定)	医師免許取得後4年目以降
日本病理学会認定分子病理専門医	医師免許取得後7年目
医学博士	医師免許取得後6年目以降(社会人大学院制度を利用)

3 キャリアパスのイメージ(想定就業例であり将来的な配置を約束するものではありません)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
状況	臨床研修		専門研修(病理) 連携・基幹						
勤務先 医療機関※	臨床研修病院群		診、猶予(3か月×2*)、*			診、診非、**			

※勤務先医療機関: 臨床研修病院群…県内の臨床研修病院
 診…診療支援部門群、猶予…県外での勤務等による猶予
 診非…診療支援部門群における非常勤での勤務
 *4年間、大学院にて医学研究を行い、6年目以降に博士号取得

4 勤務が想定される医療機関(将来的な配置を約束するものではありません)

診療支援部門群(診)
東邦大学医療センター佐倉病院、成田赤十字病院 聖隷佐倉市民病院(令和5年度もしくは6年度より連携病院となる予定)

※あくまで地域A群病院に行くことが本制度の趣旨であり、地域A群病院でニーズが生じ、相応の受入体制が整備された場合は、地域A群病院に配置されることになります。

【非常勤勤務について】

想定される勤務シフト(週の勤務日数等)

- 東邦大学佐倉医療センターで週4日程度、その他の診療支援部門群(または県外の医療機関)で週1日程度

5 診療科別コース管理者からのメッセージ

<p>適切な治療を受けていただくためには正確な診断が必要です。多くの場合、病理診断が最終診断となって治療戦略や予後に大きな影響を及ぼし、更には、治療の評価にも大きく関わっています。最近では分子生物学の進歩により、分子標的薬などの薬剤選択・オーダーメイド治療でも病理の必要性が重視されています。ほとんどの診療科に関与していますので、診療の質ひいては病院の質を確保するために大変重要な役割を担っています。一般臨床医とは違い患者さんに直接頼られる事はありませんが、病理医が患者さんの予後を左右する役目を担い、病理学が医療の質向上に大いに関与している、それゆえに病理はやりがいもあり、この分野の魅力でもあるのです。患者さんのための病理診断ですが、直接治療に携わるわけではなく、Doctor's doctor といった側面もあります。病理学領域は臨床分野に比べ人材がまだまだ不足しています。本邦の病理医数は単位人口当たりでアメリカの1/5程度(全国に2021年度末で2600名余り)です。近い将来、診療科偏りの調整が必要となり、医師余剰の可能性もありますが、病理専門医はまだ不足しています。一方で、時間を調整しやすい働き方ができ、女性医師にとっても優しい職場です。</p> <p>* 東邦大学医療センター佐倉病院病理診断科に所属しますが、東邦大学医療センター大橋病院(東京)の病理専門研修プログラムでの研修となります。専門研修2年目・3年目でそれぞれ3か月は猶予期間を利用して基幹施設である東邦大学医療センター大橋病院での研修となります。</p> <p>** 猶予期間を利用して県外の施設や上記以外の県内施設での勤務・研鑽についても相談可能です。</p>
--

(注意事項)

- 実際の勤務先等はその時点での診療科の事情や猶予期間(妊娠・出産・育児・介護等、学位取得や留学等)等の影響を受けるため、上記の内容と異なる場合があります。
- 診療科別コースを選択した上で、診療科別コース管理者との相談等を通じて個別の事情を考慮したキャリア形成プランを作成します。

診療科別コース(当初作成日:令和元年11月18日)

1 概要

診療科(基本領域)	病理
キャリア形成支援機関	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
診療科別コース管理者 所属職氏名	亀田総合病院 臨床病理科 特任包括部長 福岡 順也
問合せ先	亀田総合病院 卒後研修センター kouki-kenshu@kameda.jp
コースの特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりのキャリアプランを尊重し、研修中のライブイベントにも柔軟に対応する、自由度の高い個別プログラムです。 ・身分保障がしっかりしており、安心して研修に専念できます。 ・充実した指導体制のもとで、向上心に溢れた多くの同期(自科・他科)とともに、楽しみながら知識・技術の研鑽が可能です。

2 取得可能な資格、知識、経験等

取得可能な資格、知識、経験等	備考(標準的な取得時期等)
病理専門医	医師免許取得後6年目
日本臨床細胞学会細胞診専門医	医師免許取得後6年目
死体解剖資格(厚生労働省認定)	医師又は歯科医師の免許を得て2年を経過した後、初めて解剖に従事した日から起算して2年以上解剖に関連する診断等に従事し、かつ直近の5年以内に20体以上について死体解剖を経験した者
日本病理学会認定分子病理専門医	医師免許取得後7年目
医学博士	医師免許取得後9年目 (県外の大学院の場合、猶予期間を利用)

3 キャリアパスのイメージ(想定就業例であり将来的な配置を約束するものではありません)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
状況	臨床研修	専門研修(病理)							
		基幹	連携	基幹					
勤務先病院※	臨床研修病院群		B、A非			B、A非、*			

※勤務先病院:臨床研修病院群…キャリア形成プログラム【新プログラム】に定める県内の臨床研修病院
A…地域A群、B…地域B群、C…県内病院群、猶予…県外での勤務等による猶予
*:3~4年間、大学院にて医学研究を行い、博士号取得

4 勤務が想定される医療機関(将来的な配置を約束するものではありません)

地域A群	地域B群	県内病院群
さんむ医療センター 国保直営総合病院君津中央病院	亀田総合病院	

※ 地域A群における非常勤での勤務について

想定される勤務シフト(週の勤務日数等)

- ① A群病院での週2日の非常勤での勤務を5年間(常勤換算方法:0.4年×5=2年)
- ② A群病院での週1日の非常勤での勤務を10年間(常勤換算方法:0.2年×10=2年)

5 診療科別コース管理者からのメッセージ

臨床病理化とは、生検などで採取された組織や細胞を対象に、疾患の診断を行う診断科で、病理学は疾患機序の釈明を行ったり、新たな治療へとつなげる因子を探索したり、臨床と研究の架け橋となる学問です。従来行われてきた顕微鏡で組織や細胞をみて診断を行うという基本的な業務に加え、遺伝子やタンパク質などの分子発言のパターンや、デジタル技術やインフォーマティク技術を駆使した画像およびデータ解析結果に基づいて最終診断を行い、個別化医療における診断部分のコアを担う診断科へと変わっていきます。今後、AIoTの時代に入り、病理学は遠隔医療を牽引する担い手となります。デジタル化が急激に進み、距離と時間を超え、地球規模でテレヘルスを展開する突破口となるでしょう。病理学は臨床にも研究も精通し、それぞれをつなぐ役目を担える診療科で、分子とピクセルという大きな技術革新の波を取り入れ発展することが予想されます。今後やってくる新たな産業革命を牽引する診療科に皆さんも参加されませんか？

※猶予期間を利用し、以下の県外施設で研修を行う可能性があります。
長崎大学病院、豊見城中央病院 病理診断科

(注意事項)

- ・ 実際の勤務先等はその時点での診療科の事情や猶予期間(妊娠・出産・育児・介護等、学位取得や留学等)等の影響を受けるため、上記の内容と異なる場合があります。
- ・ 診療科別コースを選択した上で、診療科別コース管理者との相談等を通じて個別の事情を考慮したキャリア形成プランを作成します(旧プログラム選択者についてもこの例を参考にキャリア形成プランを作成します)。